

第 5 回 県有施設・県出資団体等調査特別委員会資料

公の施設等について
～個別施設の現状と課題、その対応方針～

竜神大吊橋（営業戦略部）

令和 5 年 12 月 21 日（木）

○施設名 竜神大吊橋

1 現状

(1) 施設の概要

- 竜神大吊橋は、常陸太田市の観光事業の推進及び産業の振興を図る目的をもって設置し、地域住民及び一般観光客のための観光レクリエーション施設としての役割を担っていると同時に、本県における重要な観光拠点の一つとなっている。

所在地	常陸太田市天下野町 2133 番 6
開業年月	平成 6 年 4 月
施設概要	施設敷地 20, 449. 30 m ² 、橋梁 全長 375m
設置理由	常陸太田市の観光事業の推進及び産業の振興を図るため
利用料金	個人 大人 320 円、小人 210 円 団体 大人 290 円、小人 190 円

(2) 管理手法 ※令和5年7月1日時点

- 平成17年度より茨城県から常陸太田市へ無償で貸付けを行い、市が指定管理者制度により施設を運営している。

相手方	常陸太田市
契約形態	公有財産使用貸借契約（平成6年度締結） 3年更新（令和5年4月1日～令和8年3月31日）
契約内容	土地 20,449.30 m ² 、付帯工作物 38 件の貸付け
貸付料 （年額）	無償
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・常陸太田市において「常陸太田市水府竜神観光施設の設置及び管理に関する条例」を制定（平成17年9月30日施行）。 ・指定管理者は、株式会社水府振興公社（平成17年度から常陸太田市より受託）。 ・平成6年度から平成16年度までは、茨城県から水府村へ無償で貸付けを行い、村が「竜神大吊橋の設置及び管理に関する条例」を制定（平成6年4月13日施行）し、株式会社水府振興公社が管理運営を受託。

(3) 利用状況

- 利用者数は平成21年度をピークに、減少傾向が続いており、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2～3年度に大きく落ち込んだ。
- 令和4年度の利用者数は回復基調にあるものの、ピーク時の65.5%となっている。

【利用者数の推移】

（単位：人）

年度	H21 (ピーク)	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R4/ピーク
利用者数	269,957	254,928	251,423	252,200	249,198	249,723	224,707	139,757	117,151	176,824	65.5%

(4) 経営状況

- 施設では、バンジージャンプ台の設置や「鯉のぼりまつり」、「竜神峡紅葉まつり」を実施しているほか、県事業と連携し「コタツで星空観賞会」や「ナイトカヌー」などの新たなアクティビティの創出に取り組むなど様々な事業を展開し、誘客促進を図ってきている。
- その結果、利用料収入は過去9年間平均で58,364千円程度となっており、安定的な経営を維持・継続している。一方で、令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者数は減少したものの、維持管理費等を節約するなど歳出を抑えることで対応している。

【収支の推移】

(単位：千円)

年度	歳入計 (A)		歳出計 (B)	うち維持管理費		収支 (A-B)
	うち指定管理料 (常陸太田市)	うち利用料収入		うち人件費	うち維持管理費	
H26	118,765	45,201	118,765	30,945	14,256	0
H27	110,972	39,069	110,972	26,602	12,467	0
H28	95,471	30,837	95,471	23,044	7,793	0
H29	97,017	30,656	97,017	24,148	6,508	0
H30	99,570	32,804	99,570	25,924	6,880	0
R 1	94,948	34,058	94,948	26,099	7,959	0
R 2	69,370	29,709	69,370	24,010	5,699	0
R 3	63,668	31,546	63,668	27,737	3,809	0
R 4	86,777	37,402	86,777	31,489	5,913	0
平均	92,951	34,587	92,951	26,666	7,920	0

※施設は、常陸太田市が指定管理者制度により運営しているため県負担なし

【大規模修繕の推移】（10,000千円以上の修繕を記載）

- 県と常陸太田市で取り交わしている、公有財産使用貸借契約書第6条の規定により、維持保全及び修繕に要する経費は、すべて常陸太田市の負担とするとしている。
- 市は、利用料収入の一部を観光振興基金として積立し、基金を活用しながら修繕等を実施している。
- 平成26年度以降、規模の大きな修繕は実施していない。

(5) 周辺エリアの動向、他県の類似施設の状況

- 施設の周辺には、竜神ダム近くに位置している「竜神カフェ」、温浴施設「竜っちゃん乃湯」、オートキャンプ場を備えた「水府竜の里公園」、奥久慈県立自然公園内にあるキャンプサイトや遊具を備えた「竜神ふるさと村」などがあり、周辺施設と連携し誘客の促進を図っている。

2 課題

- 利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した後、回復基調にあるが、更なる利用者数の増加を図るため、新たなアクティビティの導入を検討するなど、魅力向上に努める必要がある。
- 施設は、設置後29年が経過しており、橋の塗装などに経年劣化がみられることから、長寿命化に向け計画的に修繕等を実施していく必要がある。

3 対応方針

現所有者	今後、想定される所有者	今後の取組方針（案）	該当の有無
県	県	現行の管理手法での施設運営の合理化など	○
		民間活力の導入による運営改善（施設リニューアル、P-PFI等）	
	市町村	譲渡・譲与	
	民間	譲渡	
	—	廃止・休止	

【方針】

- 現行の運営手法を継続し、施設の長寿命化も見据え、市や周辺地域との連携を図りながら効率的な施設運営に努めていく。また、多言語化やコンテンツの充実など、回復基調にあるインバウンド需要も見据えた魅力向上による誘客促進に取り組んでいく。

【理由】

- 当施設は、常陸太田市の観光事業の推進及び産業の振興を図る役割を担っているほか、本県における重要な観光拠点の一つとして利用されている。
- 平成17年度以降、常陸太田市が管理運営を行い、施設の魅力向上に向けた様々な取り組みを実施してきており、引き続き市において管理運営することで、効率的な運営による経費削減や周辺施設との連携による更なる魅力向上を図る。

公の施設等に係る運営評価等調書

施設名	竜神大吊橋	所管課	営業戦略部営業企画課
-----	-------	-----	------------

1 施設概要

所在地	常陸太田市天下野町2133番 6	整備年月	平成6年4月
設置の根拠法令等	常陸太田市水府竜神観光施設の設置及び管理に関する条例（常陸太田市）		
設置目的	常陸太田市の観光事業の推進及び産業の振興を図るため		
事業内容	竜神観光施設の管理運営に関する業務 竜神観光施設の維持保全に関する業務 通行料及び利用料金の収受に関する業務		
施設内容	施設敷地20,449.30㎡、橋梁 全長375m		

2 管理者

(令和5年7月1日現在)

管理区分	貸付契約、指定管理	管理者名	常陸太田市、株式会社水府振興公社
体制	19人 内訳	常勤職員	5人、非常勤職員 14人

3 利用状況

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
利用者数(人)	目標値	-	-	250,000	251,000	252,000
	実績	249,723	224,707	139,757	117,151	176,824

4 施設運営に係る事業費

(千円)

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
収入	指定管理料	32,804	34,058	29,709	31,546	37,402
	使用料収入	66,766	60,890	39,661	32,122	49,375
	その他	0	0	0	0	0
	合計①	99,570	94,948	69,370	63,668	86,777
支出	人件費	25,924	26,099	24,010	27,737	31,489
	管理運営費	6,880	7,959	5,699	3,809	5,913
	その他	66,766	60,890	39,661	32,122	49,375
	合計②	99,570	94,948	69,370	63,668	86,777
収支(①-②)		0	0	0	0	0

(千円)

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
大規模修繕費	0	0	0	0	0

※10,000千円以上の修繕費

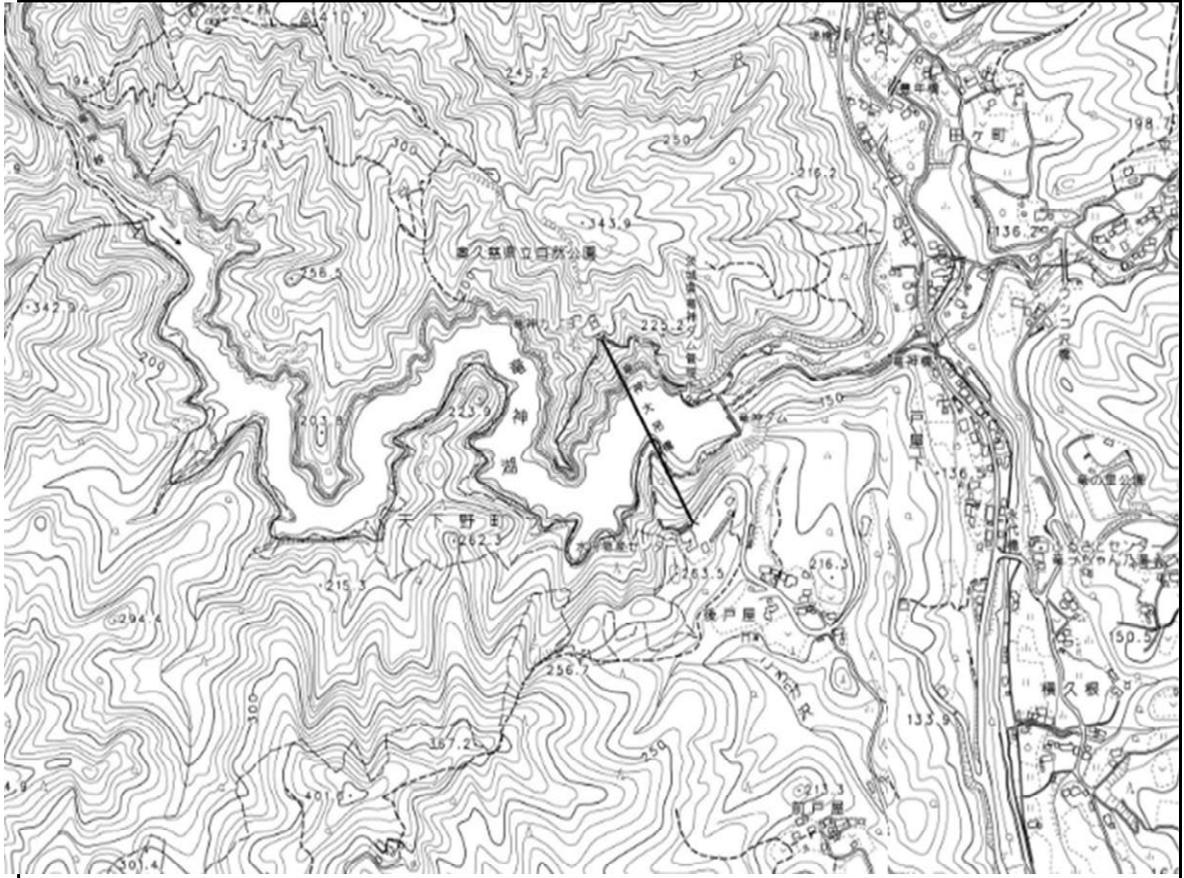
5 運営上の課題と対応

課題	対応
○ 利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した後、回復基調にあるが、更なる利用者数の増加を図るため、新たなアクティビティの導入を検討するなど、魅力向上に努める必要がある。	○ 現行の運営手法を継続し、施設の長寿命化も見据え、市や周辺地域との連携を図りながら効率的な施設運営に努めていく。
○ 施設は、設置後29年が経過しており、橋の塗装などに経年劣化がみられることから、長寿命化に向け計画的に修繕等を実施していく必要がある。	○ また、多言語化やコンテンツの充実など、回復基調にあるインバウンド需要も見据えた魅力向上による誘客促進に取り組んでいく。

※長寿命化の推進、資産総量の適正化、資産の有効活用の観点から記載すること。

(参考)

1 施設の位置図



2 施設の写真



3 施設の配置図（平面図）

